

i-muse 特別展

「イシブラス35年の軌跡」－ IHIがブラジルにかけた情熱

開催：平成21年3月16日～4月28日



1959（昭和34）年1月、ブラジル政府当局とIHIの出資による日本・ブラジル合併の造船・重工業会社「Ishikawajima do Brasil-Estaleiros S.A.」（石川島ブラジル造船所：略称“イシブラス”）が設立されました。日本企業の海外進出がまだ盛んでなかった当時、“地球の反対側の遥かなる国”への進出は、石川島重工業（当時）社長の土光敏夫にとっては当然の挑戦でした。

イシブラスは、中南米最大、随一の造船・重工業会社として発展し、35年の歴史の中で、各種船舶や海洋構造物、大型船用ディーゼルエンジン、そして高炉、圧延機、水門、クレーンなどの陸上機械を、ブラジル国内のみならず周辺各国に提供してきました。

ブラジル経済の悪化により、1994（平成6）年イシブラスは現地の大手造船会社エマキ・ベロルメ社と合併し、インダストリア・ベロルメ・イシブラスとなりましたが、イシブラスは日本企業による海外進出のパイオニアとして大きな足跡を残すものであり、日本とブラジルの交流に大きな貢献を果たしてきたのです。

2009年は、石川島ブラジル造船所（略称：イシブラス）が設立されて50年にあたります。

特別展では、資料や映像で、イシブラスがブラジルに残した足跡をたどります。是非ご来館ください。